

めい あい へるぶ ゆう—ダスキン愛の輪基金

1980年8月22日、ダスキンを創業して17年目、創業者 鈴木清一が永眠されました。終生願い続けてきた「祈りの経営」という独自の経営理念と、その思想「人を育てる」「惜しみない愛を捧げる」という愛の精神を受け継ぎ、前進できる目標が必要でした。

翌年の1981年、国連が提唱した国際障害者年のテーマ、障がい者の社会への「完全参加と平等」の趣旨に沿って、創業10周年を迎えたミスターードーナツが、お世話になった地域の皆さまへのお礼返しとして、「ミスターードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」を提唱し、日本全国に大きな影響をもたらし、その事業継承のため、ダスキンの社会貢献活動のひとつとして、「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」が発足し、2012年2月、内閣府の公益認定を受け「公益財団法人 ダスキン愛の輪基金」として生まれ変わりました。

「めい あい へるぶ ゆう？（何かお手伝いすることはできませんか？）」、私たちにできることはほんの小さいことかもしれません。誰かのために、何か少しでもお役に立たせていただきたい。街角で困った人を見かけたら、お手伝いしたい。

一人ひとりの真心や優しさを行動に表し、「障がい者の自立と社会との共生」の実現を願い、小さなボランティアの輪が広がって、障がいのあるなしにかかわらず、全ての人々が心豊かな社会になりますように願っています。

あいのわ宣言

私たちは、この運動を通じて障害者の方々が社会への完全参加を果たせるよう平等の立場から、心身障害児・者福祉の発展に努めることを誓います。

「広げよう愛の輪運動」会員憲章

私たちは、人間の尊厳と社会正義の信念に基づき、心身に障害を有する人びと、すべてを連帯する。

私たちは、「広げよう愛の輪運動」のシンボル・バッジを掲げ、広く多くの人びとに運動の理念を啓発し、併せて参加を呼びかける。

私たちは、障害者における安全な社会環境の整備を求める、障害者のニーズを理解し、ボランティア活動等の遂行のために、知識と能力の研鑽に努力する。

すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊ばれ、諸権利を有し、そして平等である。私たちは、すべての人間が深い絆で結ばれ、社会への完全参加を指針とし、援助と協力を積極的に行う決意をここに宣言する。



公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

〒564-0063 大阪府吹田市江坂町3-26-13 ダスキン江坂町ビル
TEL.06-6821-5270 FAX.06-6821-5271 <https://www.ainowa.jp>



公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

2020年度(第40期) 事業報告書



愛の輪運動は障がい者の自立と社会との共生を応援しています。

心豊かに暮らせる社会を願って

合掌

「ダスキン愛の輪基金」は、国際障害者年が定められた1981年に、「めい あい へるぶ ゆう」(何かお手伝いできることはありますか?)という思いのもと、障がい者の自立と社会との共生を目指し、今年で41年目を迎えます。

現在、当財団では、主に二つの事業に取り組んでいます。

一つは、財団設立時から実施している「ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業」です。地域社会のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者を海外に派遣する事業で、帰国後はその貴重な体験を活かし、大学教授や弁護士、自立生活センターの運営、パラリンピック選手など様々な分野で活躍されています。

もう一つは、1999年より実施している「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」です。

アジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き、障がい者福祉を学んでいただく事業で、帰国後は母国で障がい者福祉のリーダーとして活躍されています。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、当財団におきましても、昨年度は研修生の派遣、受け入れに関しては中断せざるを得ない状況でした。そのような中、研修生の安全・安心を第一に考え、オンラインを活用した事業の取り組みや、研修生の様子などを多くの方々に発信してまいりました。今後も、より多くの皆様に愛の輪基金の活動をお伝えしてまいります。

愛の輪活動は、会員の皆さまからの会費やミスターードーナツ店舗などの募金、寄付、研修生を受け入れていただく関係機関を含めた多くの皆さまからの温かな支えによって続けることができております。これからも公益財団としての社会的責任を果たし、愛の輪活動をより多くの方にご理解いただくための取り組みを行い、全ての人が心豊かに暮らせる社会づくりのお手伝いを続けてまいります。

今後共、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

ありがとうございました。合掌

公益財団法人 ダスキン愛の輪基金
理事長 山村 輝治



事業発足後、40年間で528名の研修生を 海外17カ国に派遣。第40期は個人研修生4名、 ミドルグループ研修生3名が研修派遣待機中です。

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業は、1981年に国連で決議された国際障害者年を契機に、障がい者の社会への完全参加と平等の実現を目指して発足。この事業は、地域社会のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者に海外で研修していただくもので、障がいのある人を対象とした海外研修派遣制度として、国内外に広く知られています。

研修派遣生の
構成
(528名)

地域別(応募時)

北海道 …… 9名 北 陸 …… 13名
東 北 …… 28名 近 畿 …… 105名
北関東 …… 64名 中 国 …… 21名
南関東 …… 59名 四 国 …… 15名
東 京 …… 123名 九 州 …… 42名
東 海 …… 49名

障がい種別

知的障がい	77名
視覚障がい	115名
聴覚障がい	100名
盲 ろ う	2名
肢体不自由	211名
て ん か ん	10名
内部障がい	8名
精神障がい	4名
発達障がい	1名

ミドルグループ研修

【グループ名】メインストリームインクルーシブ部
【研 修 先】イタリア

【研 修 期 間】2023年7月～9月の間(予定)

【研修テーマ】インクルーシブ教育の先進国といわれるイタリアで、障がい当事者の学校生活の現状と、支援体制が確立されていった過程を学び、私たちの活動拠点でのインクルーシブ教育の実現に役立てたい。

私たち3人は、普段兵庫県西宮市にある自立生活センター「メインストリーム協会」のメンバーとして、地域の教員の方々や障がい当事者の親御さんなどと連携し、西宮市における通学支援の実現に向けて取り組んでいます。この活動とともに研修の準備も随時進めています。具体的には、渡航アドバイザーの先生からイタリアのインクルーシブ教育のオンライン勉強会をご紹介いただき参加。その他、イタリアの教育制度に関する書籍や資料の閲覧を通して、障害者権利条約への理解を深めています。

鍛治 克哉さん(肢体不自由)
グループリーダー



みんなで準備を進める中、日を追うごとに「とにかく早くこの目で、イタリアの障がい者教育の現状を見たい!」という気持ちが募っています。

数矢 雄さん(肢体不自由)

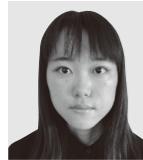


障がいがあっても楽しく自由に生活できるようサポートする活動を実施。イタリアでは、学校の教育環境を見て、教育に関する法律も学びたいです。

真名野 枝里子さん(肢体不自由)



さまざまな仕事にトライして障がい当事者の力になりたいと奮闘中です。インクルーシブ教育の大切さを感じ、深く学びたいと考えています。



個人研修生

高木 沙祐里さん
(肢体不自由)

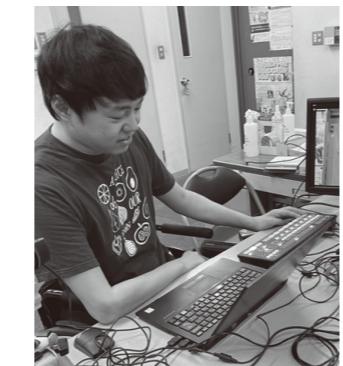
【研修先】デンマーク:エグモントホイスコーレン アメリカ:未定
【研修期間】2023年8月~2024年6月(予定)
【研修テーマ】デンマークにおける障がいの捉え方と障がい者の自立を学ぶ

日本では、障がい者=社会的に弱い立場というイメージが強いです。私は、そのイメージは社会が作り出しているのではないかと感じています。今回の研修では福祉最先進国であるデンマークの福祉を学び、日本と比較することで双方の長所と短所を知ることができたらと考えています。現在は、研修先の新型コロナウイルス感染症の状況や対策法を調べたり、現地の方に連絡を取って状況を教えてもらったりしています。また、研修テーマに関する文献学習も進めています。そしてテーマに対する理解が深まる中、アメリカでの研修も視野に入れたいと思うようになりました。そのため、現在は費用面や体力面を考慮しながら、アメリカでの研修先も調べています。



個人研修生
笠柳 大輔さん
(肢体不自由)

【研修先】アメリカ:CDR(Center for Disability Rights)
【研修期間】来年のなるべく早い時期。コロナの状況が収まり、準備が整い次第、渡米したいと思っています。(予定)
【研修テーマ】障がい者運動におけるファンドレイジングを学ぶ



個人研修生
福島 愛未さん
(聴覚障がい)

【研修先】デンマーク:フロントランナーズ
【研修期間】2022年9月~(予定)
【研修テーマ】映像の制作技術および情報発信技術を学ぶ

私は、大学院でろう者の行動特性にあつた空間デザイン・デフスペースデザインに関する研究を行っています。この取り組みの中で感じるのは、ろう者の生活を知らない人々にデフスペースデザインを理解していただくのはとても困難であるということ。そのため、研修先では映像の制作技術や情報発信技術を学び、いすれは北欧諸国や米国、日本のデフスペースデザインを記録した映像を制作し、情報を発信していきたいと思っています。研修前の準備として、現在は研修先でのコミュニケーションに必要な国際手話のスキルアップに取り組んでいます。その一環として世界のろうコミュニティの情報を紹介する国際手話のニュースを見て語彙力強化に励んでいます。



個人研修生
小貫 怜央さん
(肢体不自由)

【研修先】アメリカ:未定
【研修期間】2022年春頃から(予定)
【研修テーマ】アメリカにおける車椅子スポーツとソフトボールについて学ぶ



コロナ禍での新しい取り組み

人が集まることが難しい状況が続く中、今期はオンラインを活用して研修や成果発表会・修了式を行いました。

オンラインミーティングで 研修準備&情報交換

第40期研修派遣生の研修準備の一環として複数回開催しました。派遣生同士の情報交換のほか、来日中のアジア第21期生との交流も。質疑応答では英語と日本語での会話が弾みました。



第38期研修派遣生

成果発表会・修了式開催

2020年10月23日(金) 株式会社ダスキン東京オフィス

コロナ禍の影響から、研修生は会場とオンライン等で参加し、関係者の皆様は動画配信でご視聴いただきました。当日は第38期生に加え、第37期生・第39期研修生も参加。海外での学びと現在の活動などを力強く発表していただきました。



<https://youtu.be/uKVXF66f36A>



会場で

VTRで

海外や全国各地から
オンラインで

海外や全国各地をオンラインで結び、多くの方々に参加いただきました

1999年の発足より22年目を迎えた アジア太平洋地域からの研修生招へい事業。

[研修のスタートを願い、準備を進める第22期研修生の5名を紹介します。]



ノー・サン・ター・ウイさん
年齢:25歳
出身地:ミャンマー 愛称:ウイ
聴覚障がい

ろう学校の補助教員として働くウイさんは、ミャンマーの手話は単語数が少ないため、日本ではどのように手話単語を増やしているのか知りたいと思っています。今回の研修では、ミャンマー手話を充実させることを目指して、手話単語の創出、手話教授法、成人ろう者に対するノンフォーマル教育などについての研修の受講を希望しています。



バスティアン・コーララゲ
デイル・シャン・カヴィンダ・ロドリゴさん
年齢:30歳 出身地:スリランカ
愛称:カヴィンダ 聴覚障がい

カヴィンダさんは、ガンパハラウ協会の事務局長として、コミュニケーションができないろう者の支援やシンハラ語の読み書きの指導などの活動に取り組んでいます。スリランカのろう児が明るく幸せな未来を築けるよう支援をしたいとの思いから、日本での研修を決意。ろう者の人権擁護やろう児の教育支援について深く学び、言語のろう者支援に活かしていきたいそうです。



ジャスミン・センテアノ・アンビオンさん
年齢:31歳
出身地:フィリピン 愛称:ジャスミン
視覚障がい

コンサルティング会社で音声文字起こしスタッフとして働くとともに、インクルーシブ教育機関に所属するジャスミンさん。障がい者にとって困難な雇用状況の改善と障がい者にもチャンスがあるということの発信のために、今回の研修に応募しました。具体的には求職者が雇用してもらえるような仕組みをつくり、ソーシャルメディアで発信したいとのことです。



ウェン・ルウットさん
年齢:27歳
出身地:カンボジア 愛称:ウェン
肢体不自由

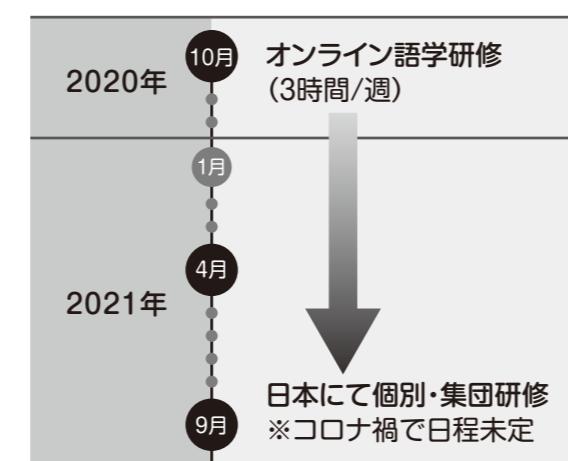
Kuruna Battambang Organizationに所属し、英語の指導や英語通訳コーディネーターとして働くウェンさん。所属団体や障がいのある人が住んでいる村をサポートするために必要な知識や技能の習得のために研修に応募。日本で障がい者の権利擁護や地域の障がい者の支援方法、行政交渉を学び、自国のさまざまな問題解決を目指しています。



マウディタ・ゾブリタニアさん
年齢:25歳
出身地:インドネシア 愛称:ゾーさん
肢体不自由

ブラウイジャヤ大学(公立)で日本文学を学んでいるゾーさんは、自身が所属するコミュニティの中で障がい者のバリアフリーや福祉制度の整備を進めて、障がい者の生活の向上を実現することが目標。そのために日本での研修では、バリアフリー推進の方法や障害者福祉サービス、日本の手話を学びたいと考えているそうです。

第22期生 主なスケジュール



アジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き、各地の機関・施設で障がい者福祉を学んでもらい、帰国後は母国のリーダーとして活躍していただく人材育成事業です。第22期は応募者184名の中から5名が選出。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、来日しての研修は未定ですが研修生たちは来るべき日に備えて着々と準備を進めています。

第23期生 主なスケジュール

2020年12月	研修生募集期間
2021年5月	委員会 準備・実施
2021年12月	現地面接 準備・実施
2022年2月~7月	来日準備・オンライン語学研修
2022年8月	語学研修
2022年10月	個別・集団研修

現在までに
29の国と地域から
146名が参加

●カザフスタン	2名
●タジキスタン	2名
●キルギス	1名
●アフガニスタン	1名
●ウズベキスタン	1名

●韓国	6名
●台湾	9名
●モンゴル	6名
●中国	4名

●ネパール	13名
●パキスタン	9名
●バングラデシュ	6名
●スリランカ	7名
●インド	5名
●モルディブ	3名
●ブータン	1名

●ベトナム	9名
●フィリピン	11名
●インドネシア	8名
●カンボジア	8名
●マレーシア	6名
●ミャンマー	7名
●タイ	6名
●ラオス	5名
●シンガポール	2名

●パプアニューギニア	1名
●フィジー	5名
●ソロモン	1名
●サモア	1名

2020年7月30日(木) 株式会社ダスキン東京オフィス



▲修了証を手にして晴れやかな笑顔の研修生たち



YouTubeを
活用して
動画生配信



<https://youtu.be/99ORuwmghnM>

コロナ禍の影響で集まつての活動が難しい中、 Webやオンラインを活用した取り組みを進めました。

九州地域活動 愛の輪研修修了生インタビュー

九州地域では、愛の輪の研修に参加された研修修了生にインタビューを実施。応募のきっかけや研修の体験談、現在の目標など、さまざまな質問に答える研修修了生の動画を作成し、地域で活用しています。愛の輪のホームページにも掲載していますので、是非、ご視聴ください。

第24期生
新垣正樹さん第35期生
東川結衣さん第37期生
宮城千恵子さん

ミスターードーナツ創業の日(1月27日)をプロモーション

「1月27日にドーナツを食べると社会貢献できる事業」を多くの方に知つていただくために、研修修了生5名にご協力いただき、ニュースレターを作成。(株)ダスキン ミスターードーナツ事業部のお力添えをいただき、ニュースリリースを配信、新聞・通信社・雑誌(Web含む)など、82社の媒体に掲載され報知ができました。

第30期生
木村敬一さん第30期生
織田友理子さん第30期生
寺嶋千恵子さん第26期生
広瀬芽里さん第25期生
柴田昌彦さん

見やすい愛の輪のホームページにリニューアルしました <https://www.ainowa.jp/>

ホームページでは世界各国で学んだ 先輩たちの体験談や日本での 活動インタビューなど映像で紹介

アメリカ、イギリス、ドイツ、韓国、コスタリカ、デンマーク、スウェーデンで研修をした先輩7名の体験談を映像で紹介します。ダスキンの研修派遣について、応募動機や研修の魅力、現在の活動にどうつながったのかなど、ご自身の言葉でお話いただきました。



「愛の輪」の活動は会員の皆さまの会費やご献金によって支えられています

ソフトバンク「つながる募金」が活用できるようになりました。
クレジットカードまたはソフトバンクご利用者なら
携帯電話料金と一緒にご寄付いただけます。



ソフトバンク
「つながる募金」を通じて
愛の輪運動へ寄付されます

詳しくはこちらへ



ダスキンweb会員サイト
DDuetコイン募金ページの開設。

本年度実績 3,382件 505,914円

ダスキンの商品購入等で付与される
DDuetコインを愛の輪基金へ
寄付ができるようになりました。



正味財産増減計算書・ 貸借対照表・財産目録 収入・支出 会員数の推移

正味財産増減計算書 2020年4月1日～2021年3月31日 単位:円

科 目	合 計
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益計	12,092,811
受取会費・賛助金	142,045,420
受取寄付金計	12,176,267
雑収益計	1,624,863
経常収益計	167,939,361
経常費用計	112,376,085
当期経常増減額	55,563,276
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益計	0
(2) 経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	55,563,276
一般正味財産期首残高	116,826,030
一般正味財産期末残高	172,389,306
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	-5,924,800
指定正味財産期首残高	1,855,577,800
指定正味財産期末残高	1,849,653,000
III 正味財産期末残高	2,022,042,306

財産目録 2021年3月31日現在 単位:円

資産の部	
【流動資産】	
現金預金	133,853,975
未収金	7,049,510
貯蔵品	1,298,384
前払金	0
仮払金	0
流動資産合計	142,201,869
【固定資産】	
基本財産	1,849,653,000
その他の固定資産	41,873,867
固定資産合計	1,891,526,867
資産合計	2,033,728,736

負債の部

【流動負債】	
未払金	1,641,025
前受会費	74,000
預り金	295,120
流動負債合計	2,010,145
【固定負債】	
退職金給与引当金	9,676,285
固定負債合計	9,676,285
負債合計	11,686,430
正味財産	2,022,042,306

貸借対照表 2021年3月31日現在 単位:千円

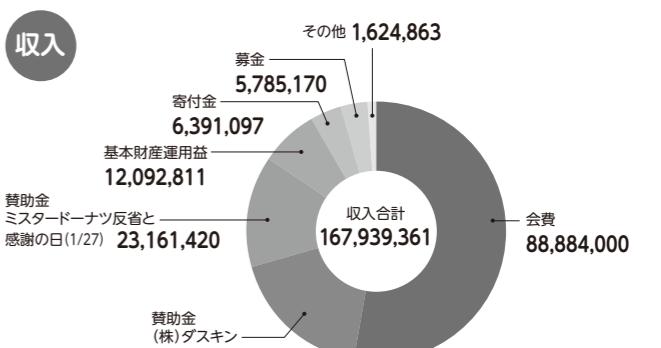
	第38期 2019.3.31	第39期 2020.3.31	第40期 2021.3.31
資産の部			
流動資産	77,603	87,166	142,201
固定資産	1,876,251	1,893,891	1,891,526
資産合計	1,953,855	1,981,057	2,033,728
負債の部			
流動負債	3,105	1,250	2,010
固定負債	17,239	7,402	9,676
負債合計	20,344	8,653	11,686
正味財産の部			
指定正味財産	1,833,783	1,855,577	1,849,653
一般正味財産	99,727	116,826	172,389
正味財産合計	1,933,510	1,972,403	2,022,042
負債及び正味財産合計	1,953,855	1,981,057	2,033,728

*記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

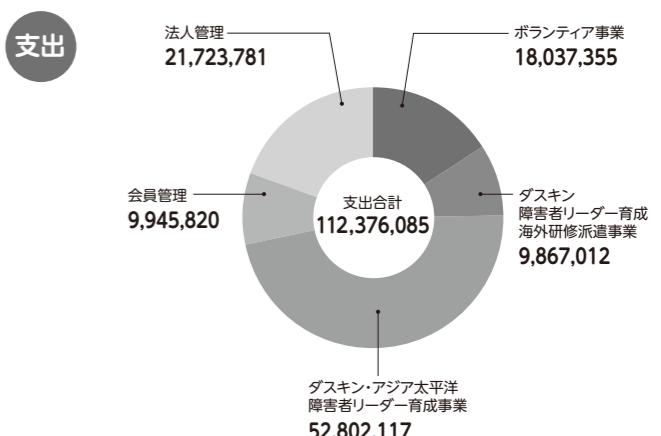
収入・支出

単位:円

収入



支出



「愛の輪」の活動は会員の皆さまの会費やご献金によって支えられています

ソフトバンク「つながる募金」が活用できるようになりました。
クレジットカードまたはソフトバンクご利用者なら
携帯電話料金と一緒にご寄付いただけます。



ソフトバンク
「つながる募金」を通じて
愛の輪運動へ寄付されます

詳しくはこちらへ



ダスキンweb会員サイト
DDuetコイン募金ページの開設。

本年度実績 3,382件 505,914円

ダスキンの商品購入等で付与される
DDuetコインを愛の輪基金へ
寄付ができるようになりました。



第40期(2020年)は、コロナ禍の影響で 研修派遣生7名の海外派遣は待機中となっています。

■第1期 1981年

- 3月16日:東京・帝国ホテルで「ミスターードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」の記者発表会が行われる。
- 11月26日:厚生省より「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」としての認可を受ける。

■第2期 1982年

- 1月7日:第1期留学生10名をアメリカへ派遣。
- 1月27日:ミスターードーナツ1日チャリティが行われる。



- 研究開発助成事業として4機関が決定。
- 第2期留学生10名を派遣。

■第3期 1983年

- 留学生9名を派遣。
- 第4期 1984年
- 留学生9名を派遣。
- 「ミスターードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」事業に対し、故山西利夫氏が「ヘレンケラー・アンサリバンゴールドメダル」を受賞する。



■第5期 1985年

- 留学生9名を派遣。
- 第6期 1986年
- 留学生8名を派遣。
- 研究開発助成事業の成果をうけて、「フェニルアラニン除去ドーナツミックス」をミスターードーナツと日本製粉が協力し開発する。

■第7期 1987年

- 留学生8名を派遣。
- 第8期 1988年
- 留学生7名を派遣。

■第9期 1989年

- 留学生7名を派遣。

■第10期 1990年

- 留学生10名を派遣。

■第11期 1991年

- 障害者リーダー米国留学派遣事業の冠名がミスターードーナツよりダスキンに、米国留学が海外研修に変わる。団体研修27名(介助者を含む)を2チームで、2週間のアメリカ研修を行う。

- 全国10地域に愛の輪地域推進委員会が誕生。

■第12期 1992年

- 研修派遣生4チーム98名(介助者を含む)を派遣。

- 知的障害者チームはスウェーデンへ、視覚・聴覚障がい・肢体不自由チームはアメリカで約2週間の研修を行う。



■第13期 1993年

- 研修派遣生6チーム97名(介助者を含む)を派遣。肢体不自由者のチームを2チームに増やして、てんかんのチームを編成、アメリカに2週間、障がい者の「就労」をテーマに学ぶ。

■第14期 1994年

- 全国59地区に愛の輪地区実行委員会を設立。
- 研修派遣生13名を派遣。

■第15期 1995年

- 愛の輪地区実行委員会を全国72地区に編成。
- 研修派遣生10名を派遣。

■第16期 1996年

- 研修派遣生10名を派遣。

■第17期 1997年

- 研修派遣生9名を派遣。

■第18期 1998年

- 研修派遣生7名を派遣。
- 第18期研修派遣生の松江美季さんが長野パラリンピックで金メダル3個を獲得。その活躍に対し、「愛の輪賞」を贈呈。

■第19期 1999年

- 研修派遣生9名を派遣。
- ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業をスタート。



■第5期 1985年

- 留学生9名を派遣。
- 第6期 1986年
- 留学生8名を派遣。
- 研究開発助成事業の成果をうけて、「フェニルアラニン除去ドーナツミックス」をミスターードーナツと日本製粉が協力し開発する。

■第7期 1987年

- 留学生8名を派遣。
- 第8期 1988年
- 留学生7名を派遣。

■第9期 1989年

- 留学生7名を派遣。

■第10期 1990年

- 留学生10名を派遣。

■第11期 1991年

- 障害者リーダー米国留学派遣事業の冠名がミスターードーナツよりダスキンに、米国留学が海外研修に変わる。団体研修27名(介助者を含む)を2チームで、2週間のアメリカ研修を行う。

- 全国10地域に愛の輪地域推進委員会が誕生。

■第12期 1992年

- 研修派遣生4チーム98名(介助者を含む)を派遣。

■第28期 2008年

- 研修派遣生30名を派遣。「ジュニアリーダー育成グループ研修」が加わる。
- 愛の輪地域実行委員会を全国11地域に編成。

■第29期 2009年

- 研修派遣生16名を派遣。

■第30期 2010年

- 研修派遣生27名を派遣。
- バンクーバー2010パラリンピック冬季競技大会のアイススレッジホッケーで、銀メダルを獲得した第21期研修派遣生 永瀬充さんに対し、「愛の輪賞」を贈呈。

- 12月3日、広げよう愛の輪運動の30年間にわたる障がい者のための福祉事業が認められ、「第60回障害者自立更正等厚生労働大臣表彰」を授賞。



■第31期 2011年

- 研修派遣生19名を派遣。
- 2011年12月、公益法人の認定を受け、2012年2月、「公益財団法人ダスキン愛の輪基金」として名称も新たにスタート。

■第32期 2012年

- 研修派遣生13名を派遣。

■第33期 2013年

- 研修派遣生9名を派遣。
- ロンドン2012パラリンピック競技大会の水泳競技において、銀メダルと銅メダルを獲得した、第30期研修派遣生 木村敬一さんに対して「愛の輪賞」を贈呈。

■第34期 2014年

- 研修派遣生14名を派遣。

■第21期 2001年

- 研修派遣生9名を派遣。
- 「スタディ・イン・アメリカ研修」が加わる。

■第22期 2002年

- 研修派遣生9名を派遣。

■第23期 2003年

- 財団設立25周年記念事業として、「グループ研修派遣」が加わる。

■第36期 2016年

- 財団設立35周年、秋篠宮妃殿下、眞子内親王殿下ご臨席のもと、海外研修派遣生の成果発表会を開催。

- 研修派遣生7名を派遣。

■第37期 2017年

- 研修派遣生8名を派遣。
- 「ミドルグループ研修」が加わる。

■第38期 2018年

- 研修派遣生8名を派遣。

■第39期 2019年

- 研修派遣生9名を派遣。

■第40期 2020年

- 研修派遣生7名を派遣(待機中)。

役員・委員一覧

(任期:2021年6月15日～2023年6月開催予定評議員会)

理 事	理 事 長	山村 輝 治	(株)ダスキン 代表取締役 社長執行役員
	専 務 理 事	宮 原 和 之	(株)ダスキン ミスターードーナツ事業本部東日本運営部 部長
	常 務 理 事	室 山 都 子	(公財)ダスキン愛の輪基金 事務局長
	理 事	山 脇 節 子	ダスキンフランチャイズチェーン全国加盟店会 理事長
	理 事	松 友 了	社会福祉士事務所・早稻田すばいく 社会福祉士
	理 事	五十嵐 紀 子	(社福)光友会 理事長・総合施設長
	理 事	松 井 亮 輔	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 副会長
	理 事	關 宏 之	元(社福)日本ライトハウス 常務理事
	理 事	山 本 貴 之	ミスターードーナツフランチャイズ共同体 理事長
	理 事	崎 野 圭 子	ダスキン生産協栄会 理事長
	理 事	大 熊 由 紀 子	国際医療福祉大学大学院 教授
	理 事	田 門 浩	都民総合法律事務所 弁護士

(任期:2019年6月19日～2023年6月開催予定評議員会)

評 議 員	評 議 員	青 柳 紀	(株)ヨコハマフーズ 代表取締役社長
	評 議 員	東 正 樹	ダスキンユニフォームサービスFCチェーン会 理事長
	評 議 員	池 口 誠	ダスキン労働組合 委員長
	評 議 員	須 田 隆	興隆産業(株) 代表取締役
	評 議 員	桂 憲 太 郎	ダスキン全国ケアサービス加盟店会 理事長
	評 議 員	中 尾 知 也	ダスキンレントオール・ヘルスレントコミュニティ会 理事長
	評 議 員	君 島 淳 二	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 常務理事
	評 議 員	佐 浦 隆 一	大阪医科大学 医学部 総合医学講座 リハビリテーション医学教室 教授

(任期:2019年6月19日～2023年6月開催予定評議員会)

監 事	監 事	宮 田 直 人	(株)ダスキン 取締役CFO
-----	-----	---------	----------------

(任期:2021年6月15日～2023年6月開催予定評議員会)

■ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業実行委員会 委員

(任期:2021年4月1日～2023年3月31日)

青 松 利 明	筑波大学付属視覚特別支援学校 教諭	小 林 洋 子	筑波技術大学 講師
青			